



くまもとの風土と文学

Climate and Literature of Kumamoto



宇土半島と緑川流域は古代から文化が栄えました。有明海に面する住吉神社のすぐ目の前に清少納言の「枕草子」に出てくるたはれ島（風流島）が浮かんでいます。三角西港は小泉八雲の「夏の日の夢」の舞台。光岡明にとって宇土は文学の原郷です。俳人篠原温亭は宇土に生まれました。宇城市松橋出身の「火の国の女」高群逸枝は東京で女性史の研究を続けながら、望郷の思いを子守唄に乗せています。ユーモア作家でミステリーの翻訳者乾信一郎は猫や野鳥を愛しました。「星の王子さま」を翻訳した内藤濯は旧熊本城下の生まれです。幕末の志士宮部鼎蔵の郷里、御船町七滝から歌人河野裕子も生まれています。